

平成 24 年 10 月 13 日

## オリンピックの後は“学園祭”

学長 木元 幸一

前回は、スポーツの祭典ロンドンオリンピックの話をしましたので、今回は文化祭ということで学園祭の話をしていきます。今年緑苑祭としては、第 52 回になります。本学は創立 131 年になり、最初は学生祭と呼んでいたようで、昭和 21 年第 1 回学生祭の写真には、「復興学生祭」の看板が見えております。多くの人々は、昨年 3 月 11 日の東日本大地震からの“復興”を思うでしょうが、当時は太平洋戦争後の復興を指しています。200 万人以上もの若者が戦争で亡くなり、焦土となった日本の復興（終戦後独立前）と本学の復興を目指してのことでしょう。時代と内容の違いはあれ、“復興”の文字には胸を打たれます。



昭和 30 年にも学生祭という文字が見えますので、昭和 34 年辺りから緑苑祭に変わったとしたら丁度今年で 52 回で、10 月 27 日、28 日の二日間開かれます。

ここ数年、緑苑祭の中身が充実してきました。模擬店ばかりでなく、講演会やシンポジウムが増えました。10 月 28 日 11 時～12 時、生活科学研究所レクチャーフォーラムにおいて畠山重篤氏の講演があります。研究所所長藤井教授のご尽力により大変忙しい中、おいで頂くことができましたようです。題目は「森は海の恋人～人の心に木を植える～」です。先の東日本大震災において壊滅状態になった牡蠣の養殖についてテレビ取材を受けていた髭を蓄えた印象的な人物を覚えている方々も多いと思います。どうやら、畠山氏は大変な知性の怪物のようです。詳しいことは当日のお楽しみということで、きっと素晴らしいお話が聞けるものと思います。

今年も学科シンポジウムが開催されます。先生方お忙しい中での学園祭への参加であり、また先生と学生が一緒になって企画し実施するものでもあります。教室の中の授業だけでは知り得なかった先生の学問的な極めて深く広い考え方や社会的な活動の格好イイ姿を知る機会になるのではないかと思います。毎年、学内外、時には海外からの専門家の参加もあり、講演や白熱した討論が行われます。児童学科・保育科は、日本の将来を見据えた法的整備が急がれるまさに激動の中にある子ども、子育て、保育の現状を討論します。児童教育学科は、「モンスター・ペアレンツに負けない学級経営 ―学級経営のおもしろさと難しさ―」といった頼もしいシンポジウムです。栄養学科は「健康食品」を取り上げ、英語コミュニケーション学科は、「小学校・中学校英語をつなぐ」というこれも今日的テーマを取り上げました。教育福祉学科は、「自分らしく！魅

力ある！女性として生きるために～職業・家庭・社会と女性の生涯発達～」と真正面から重大なテーマを掲げました。他に、「憧れのウエディングドレスーその歴史と現在ー」服飾美術学科、「お台場で働く“テレビマン的”人生論」環境教育学科、「卒業生の仕事の現場」造形表現学科等多彩なゲストと演出で楽しく有意義な時間を過ごしていただけるかと思えます。

EVE によるファッションショーもすっかり定着し人気番組となっております。幼稚園から子どもも参加し、古川先生の指導のもと年々楽しく上質なショーとなってきました。企画・準備から全て、早くから最後まで自分達で行い、やり遂げています。古川先生と先輩から引き継いできた学生達が、アイデアを出し合い、協力し、チームに結集した大きな力を発揮し、例年来られる学外の人達から惜しみなく喝采をうけている素敵なショーです。

今年は、緑苑祭と日を同じくして、10月27日に十条駅前に本学の地域連携コミュニティスペース「和」がオープンします。まずは家政大学が今まで取り組んできたピンクリボン運動をここで展開します。本学は女子大学で初めてピンクリボン運動に取り組んでおり、戸田市&戸田中央医科グループピンクリボンウォーク、北区ピンクリボン運動と共催・連携しております。今回はFM放送NACK5との連携で、10月15日から～11月3日まで本学のスポット放送が入ります。ここでは本学カフェ・コクリコで作成した無添加手作りクッキーも販売します。これからは東京家政大学の教員・職員・学生・卒業生の有形・無形の多様なメッセージを発信して行く場所となり、大学の教育研究と実社会との接点を形成し、新しい価値を産みだしていくものと期待されます。

その他、大活躍の“白藤”も出店し、後援会、緑窓会も参加しています。学園祭は、学生・教職員・卒業生が参加するオール家政大の文化祭です。学生の皆さんは是非この機会に何か新しい発見をしてください。